

2021年度第3回(一社)日本生物物理学会理事会議事録

日時:2021年11月20日(土)12:30~17:15

場所:東京大学(オンライン開催)

出席者:理事総数 19名 出席理事 17名 (代表理事を含む)

代表理事(会長)	野地 博行	理事(副会長)	今田 勝巳
理事(副会長)	佐甲 靖志	理事	相沢 智康
理事	飯野 亮太	理事	片山 耕大
理事	小島 清嗣	理事	古寺 哲幸
理事	杉田 有治	理事	田端 和仁
理事	寺川 剛	理事	永井 健治
理事	南後 恵理子	理事	西坂 崇之
理事	村田 武士	理事	柳澤 実穂
理事	山下 敦子		

監事:監事総数 2名 出席監事 2名

監事	石森 浩一郎	監事	神取 秀樹
----	--------	----	-------

オブザーバー:

邦文誌編集委員長	高橋 聡
2021年度年会委員長	
欧文誌編集委員長	中村 春木
ウェブサイト編集委員長	飯野 亮太(兼任)
2023年度年会委員長	神取 秀樹(兼任)
中部支部長	鈴木 健一
中国四国支部長	松木 均

陪席者:

BPPB サポートスタッフ	佐藤 正子
学会事務局	向井 牧子

議長:代表理事(会長) 野地 博行

議事録作成者: 片山 耕大

報告事項:

1. 2021 年度年会準備状況(高橋):報 1
 2. 2022 年度年会準備状況(相沢)
 3. 2023 年度年会準備状況(神取)
 4. 出版委員会報告(佐甲):報 4
 5. 男女共同参画・若手支援委員会報告(今田):報 5
 6. 賞・助成金推薦委員会報告(佐甲):報 6
 7. 地区報告
 8. 国際関係委員会(IAC)報告(西坂):報 8
- その他

審議事項:

1. 出版委員会関連議題(佐甲):議 1
2. 次期会誌編集委員候補の承認(佐甲):議 2
3. 次期 BPPB 編集委員候補の承認(佐甲):議 3
4. 2022 年分野別専門委員の承認(佐甲):議 4
5. 2022 年度事業計画(案)(野地):議 5
6. 2022 年度予算(原案)(山下):議 6
7. 科研費業務の委託について(野地):議 7
8. 選挙管理委員長の選任(野地):議 8
9. 終身会員制度および準会員制度の運用開始について(野地):議 9
10. 学生会員会費の変更について(野地):議 10
11. DORA 署名について(今田):議 11
12. ドライシッパー輸送拒否問題について(今田)

定足数の確認:

理事会の審議に先立ち、議長・野地博行氏より定足数の報告があった。

理事総数 19 名のうち、出席者 17 名により過半数を超えた。

報告事項:

1. 2021 年度年会準備状況(高橋):報 1

高橋聡氏より 2021 年度の年会準備状況について報告された。

● 年会準備状況について (高橋聡氏)

- 年会準備に関わる (関わった) メンバー構成が発表された。
- 年会当日までの日程が報告された。
- 年会参加登録者数 (11/9 時点) について報告された。年会当日まで参加登録可能である旨が伝えられた。
- 年会開催に係る予算案が報告された。
- シンポジウム、一般演題などの運営方法について報告され、シンポジウムは従来通りのオンライン発表、一般演題はポスター発表を一切行わず、動画を視聴して、質疑応答はリアルタイムにオンラインで開催する旨が伝えられた。
- Confit の操作方法について報告され、高橋聡氏が画面共有により、Confit の操作方法について説明がなされた。
- 懇親会について南後氏より報告がなされた。懇親会は二部構成であり、第一部を 11 月 26 日 年会二日目 19 時から開始予定である旨が伝えられた。第二部は oVice を用いて開催予定であることが伝えられた。
- 閉会式の内容について高橋聡氏より報告がなされ、学生発表賞の発表、次期年会大会長への大会旗の受け渡しの中継を行う予定である旨が伝えられた。
- 高校生向け市民講座について報告がなされた。
- SNS を活用した年会開催の宣伝を積極的に行っている旨が報告された。

2. 2022 年度年会準備状況(相沢)

相沢智康氏より、2022 年度函館年会に関する準備状況について報告された。

● 2022年度準備状況について

- 年会実行委員を決定した旨が報告された。また、実務担当委員である相沢氏が副実行委員長に昇任した。プログラム・主担当は菊川峰志氏が任命された。
- 会場は函館アリーナ+市民会館に決定した。ただし、ハイブリッド開催を見越して、会場を最大限活用する旨が伝えられた。
- 年会 HP のデザインを検討している旨が報告された。

3. 2023 年度年会準備状況(神取)

神取秀樹氏より、2023 年度名古屋年会に関する準備状況について報告された。

● 2023 年度準備状況について

- 名古屋年会の実行委員の内、北海道函館年会の副実行委員長である相沢氏に相当するメンバーが小嶋誠司氏である旨が説明された。
- 2023 年 11 月に正式に名古屋国際会議場を押えることができた。審議 5 の事業計画にすでに追加された。

4. 出版委員会報告 (佐甲): 報 4

出版委員会について、佐甲靖志氏より報告された。

● 生物物理誌の出版状況について、順調に出版されている旨が報告された。

- 生物物理誌の編集委員である高橋聡氏が任期満了し、次回からは上田氏に引き継がれる旨が報告された。

● BPPB 誌の発刊状況について、順調に出版されており、昨年よりも多くなる旨が報告された。

- BPPB Special Issue: 大沢流手づくり統計力学の英訳が近日公開予定。
- BPPB の学会 web page の大幅改修が行われ、2021 年 11 月 12 日付けて公開。

5. 男女共同参画・若手支援委員会報告 (今田): 報 5

● 年会における男女共同参画・若手支援委員会の担当について今田氏より報告された。

- 若手支援企画シンポジウムは、3 名の講演者 (土屋氏、石崎氏、伊藤氏) に講演してもらう予定で準備を進めている旨が報告された。
- キャリア支援交流会は、順調に準備が進んでおり、残すは若手研究者に向けたアナウンスを行うことだけである旨が報告された。
- 若手奨励賞招待講演を年会初日 9 時より開催、終了後に例年通り、審査員 10 名により審査を行い、最終的な受賞者を決定する旨が報告された。
- 学生発表賞の審査員がほぼ決定したとの報告が成された。

● 男女共同参画学協会について今田氏より報告された。

- 第 19 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2021 年 10 月 9 日 10 時からオンラインにより開催された。当シンポジウムには、生物物理理事会から、杉田氏、山下氏が参加した。尚、11 月から学協会連絡会の担当幹事は生物物理学会が行う旨が報告された。

6. 賞・助成金推薦委員会報告 (佐甲): 報 6

● 佐甲氏より賞・助成金推薦委員会の報告事項の説明がなされた。

- 令和 3 年度東レ科学技術賞に神取秀樹氏を推薦した。

7. 地区報告

● 中部支部の支部活動について、鈴木氏より報告事項ない旨が伝えられた。

● 中国・四国支部の支部活動について、松木氏より報告事項がない旨が伝えられた。

● 九州支部の支部活動について、資料が提示された。

8. 国際関係委員会 (IAC) 報告 (西坂): 報 8

● 年会におけるジョイントシンポジウムについて、西坂氏より報告がなされた。

- 日印シンポジウムでは坂口美幸氏（埼玉大）がオーガナイザーを務め、インド生物物理学会に所属の学生 35 名を無料で参加させる新たな試みを行う予定である旨が報告された。
- 中国生物物理学会年会在が 2022 年 7 月にオンライン開催予定であり、日本生物物理学会とのジョイントシンポジウム開催の要望が来た。
- 2022 年 6 月に ABA が台湾でオンサイト開催予定であり、日本生物物理学会とのジョイントシンポジウム開催の要望が来た。
- 登録システムの問題が露呈し、海外の講演者が、事務やオーガナイザーのサポート無しに登録できないという問題に加え、Confit で名前が欠けるトラブルが起きた。来年の年会に備え、登録システムを抜本的に見直す必要がある旨が報告された。
- 20th IUPAB Congress 2021 関連
 - 3 名の若手への登録補助を行った。
 - 大会では接続の不備（KEYNOTE の接続に 15 分程度かかるケースも）に加え、画面の表示で英語とポルトガル語が混在する不具合も発生した。3 年後の京都 IUPAB に向けて改善する必要がある旨が報告された。
 - 京都 IUPAB の次はドイツ・ベルリンに決定した（2027 年）。
- IUPAB Congress “Kyoto2024”関連
 - 実行委員会で、11 月 18 日に二回目の会議を行った。
 - 北海道年会、名古屋年会において、海外からの参加者に対する敷居を“無くす”ことで、KYOTO2024 の準備とする旨が報告された。
- Asian Biophysics Association (ABA) 関連
 - 2021 年 9 月 30 日に運営委員会が開催され、西坂氏が会計として参加した。
 - 次回大会が（仮）2022 年 6 月 22-26 日、台湾生物物理学会が舵を取り、台湾の南地区にあるリゾート地で開催予定である旨が報告された。

審議事項：

1. 出版委員会関連議題（佐甲）：議 1

- BPPB 編集委員の交代について、原則 4 年任期であり現在の編集委員は 4 年満了していないが、円滑な引継ぎを行う為、3 名の交代を行うことについて承認された。
- ウェブサイト編集委員の交代について、溝端委員から以下 3 名の候補者から 1 名を交代してもらうことについて承認された。
 - 第一候補：久保 稔（兵庫県立大学・教授）
 - 第二候補：木村 哲就（神戸大学・講師）
 - 第三候補：永野 真吾（鳥取大学・教授）
- ウェブサイト編集委員の交代について、上記 3 名のうち、第一候補者である久保 稔氏（すでに推薦を受けた際には引き受け了承の連絡を受けた）に交代することについて承認された。

2. 次期会誌編集委員候補の承認（佐甲）：議 2

- 「生物物理」編集委員の選出について、投票結果上位 5 名の編集委員（古賀信康氏、藤原郁子氏、加藤英明氏、坂口美幸氏、日比野佳代氏）を選任し、就任を依頼し、辞退者が出た場合は、次に投票数の多かった 6 位 3 名（今村博臣氏、鳥羽栞氏、野口博司氏）に依頼することについて承認さ

れた。

3. 次期 BPPB 編集委員候補の承認(佐甲):議 3

- BPPB 編集委員の交代について、秋山修志氏、宮田真人氏、須藤雄気氏の 3 名が承認された。

4. 2022 年分野別専門委員の承認(佐甲):議 4

- 分野の廃止に関する審議が行われた。「タンパク質精製法」および「発生学的手法」を廃止することについて承認された。
- 分野の新設に関する審議が行われた。「ゲノム編集」と「天然変性タンパク質」が承認された。

5. 2022 年度事業計画(案)(野地):議 5

1-2 月中に開催される理事会で 2022 年度事業計画の再考を行い、3-4 月中に開催される理事会で最終決定される見込みである旨が報告された。6 月の定期総会で決定内容を報告し、確定する流れである旨が報告された。

6. 2022 年度予算(原案)(山下):議 6

1-2 月中に開催される理事会で 2022 年度予算の再考を行い、3-4 月中に開催される理事会で最終決定される見込みである旨が報告された。6 月の定期総会で決定内容を報告し、確定する流れである旨が報告された。

7. 科研費業務の委託について(野地):議 7

- 科研費業務、BPPB 編集委員会業務担当者の退職に伴い、中西出版委員に引き継ぎ業務を委託することについて承認された。

8. 選挙管理委員長を選任(野地):議 8

- 選挙管理委員長として小嶋誠司氏を選任することについて承認された。

9. 終身会員制度および準会員制度の運用開始について(野地):議 9

- 細則の変更の文言について、終身会員制度の変更届および準会員制度の申込書の確認が成され、承認された。

10. 学生会員会費の変更について(野地):議 10

- 第 2 回学生会費検討タスクフォース (TF) について野地氏より説明が成された。学生会費の無償化について、入会や年会での発表への敷居が下がる利点の反面、懸念点が指摘され、審議が成され、以下の方策で進めることが承認された。

『有償案 B』:入会金 1000 円、会費 0 円、会員種別変更なし、選挙権あり、定款変更なし。

11. DORA 署名について(今田):議 11

- 12月17日までに San Francisco Declaration on Research Assessment (DORA) に対する生化連としての署名について、所属各学会からの意見収集の要望があった。理事会では、生物物理学学会として署名するべきかどうかについて審議を行い、承認された。

12. ドライシッパー輸送拒否問題について(今田)

- ドライシッパー輸送拒否問題について今田氏より報告が成され、生物物理学学会として問題解決に向けた取り組みへの支援、ドライシッパー輸送の適正化への協力、学会員へのドライシッパーの適正な利用に関する啓蒙活動を行うことについての提案に対し、理事会で承認された。

連絡事項:

野地氏より、次回理事会は来年1月または2月に開催予定の旨の連絡があった。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は17:15に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

2021年11月20日

一般社団法人 日本生物物理学学会 2021年度第3理事会

代表理事	野地 博行 (印)
監事	石森 浩一郎 (印)
監事	神取 秀樹 (印)